

令和8年5月25日

徳島河川国道事務所

工事現場のDX参観日を開催します ～災害対応力・生産性向上を目指しインフラDX見学会の開催～

徳島河川国道事務所は、DX建設機械を活用し、災害対応力や生産性向上を図るため、現在工事中の現場において、インフラDX見学会を開催します。

- ◇今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震等の大規模災害時には、二次災害の危険性から、有人による施工が困難となることが想定されます。
- ◇このような状況に備え、インフラDX（i-construction／インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション）を活用し、災害現場を想定した無人化施工の試験施工を実施するなど、DX建設機械を活用し、災害対応力向上だけでなく、施工時間や作業効率などの省人化・生産性の検証、加えて人材育成・技術継承を目的として、インフラDX見学会を開催します。
- ◇見学会では、様々なDX建設機械の実演や建設youtuberによるセミナー、親子で参加できる見学会などを実施します。

◇実施内容
別紙参照

◇日時

- ①令和8年5月29日（金） 13時00分～16時30分
- ②令和8年5月30日（土） 9時00分～12時00分

◇実施場所

徳島県板野郡北野町中村牛飼原
（令和6－8年度 老門堤防耐震対策工事）

※取材を希望される報道関係者の方は、徳島河川国道事務所 工務第一課まで申し込みをお願いします。

本施策は、四国圏広域地方計画「NO.1南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災向上プロジェクト」の取組に該当します。

【問い合わせ先】 ◎主たる問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 電話：088-654-2211（代表）
電話：088-654-9161（工務第一課直通）

副所長（河川）：佐藤 英人（内線 204）
◎工務第一課長：中村 伸輔（内線 311）

5/29^金
13:00
16:30

※5/30(土)はDX参観日!

インフラDX見学会



建設DX活用工事の一環として、現場見学会を開催! 当工事現場で使用する新技術について、各社の担当者が実演を行います。今後の活用をご検討されている方にとって大変貴重な機会となっています。

1 株式会社 諸岡



災害現場を想定した遠隔操作バックホウおよび自動走行クローラードンプ

2 DataLabs 株式会社



3D配筋検査システム『Modely』

3 株式会社 EARTHRAIN



Smart Construction Fleet

注目の新技術が続々
こちらチェック!

※会場案内図参照

4 西尾レントオール 株式会社



BH0.04m3
『電動ミニバックホウ』

5 喜多機械産業 株式会社



BH0.16m3
『チルトローテータ』

6 レフィクシア 株式会社



LRTK

7 シェルフィー 株式会社



安全書類クラウド管理
『Greenfile.work』

8 ルーチェサーチ 株式会社



ウォーキングレーザ
『GEO-Walk』

会場案内図

開催場所

板野郡北島町中村前須地先



タイムスケジュール

5/29^金
13:00
16:30

13:00 受付開始
13:50 開会挨拶
14:00 セミナー
『無人化施工と自動化施工の未来』
講師:建設 YouTuber 石男くん 柿崎様
14:30 セミナー
『i-Con 2.0に向けての最新事例』
講師:四国地整 ICT 専任講師 沖山様
15:00~16:30 自由見学・終了

建設 YouTuber 石男くん

株式会社 新庄砕石 工業所 代表取締役 柿崎様



四国地整 ICT 専任講師

CRAFTCOM 株式会社 代表取締役 沖山様



5/30^土
9:00
12:00

親子で参加できる! DX参観日

- プログラム一覧
- 災害現場を想定した遠隔操作バックホウおよび自動走行クローラードンプ 見学
 - BH0.04m3『電動ミニバックホウ』乗車&記念撮影
 - BH0.16m3『チルトローテータ』乗車&記念撮影
 - 高所作業車 高いところから見える景色は絶景かも
 - 生コンクリートを触ってみよう

※当日の内容は変更となる場合あり

セミナー参加特典 CPDS |ユニット付与

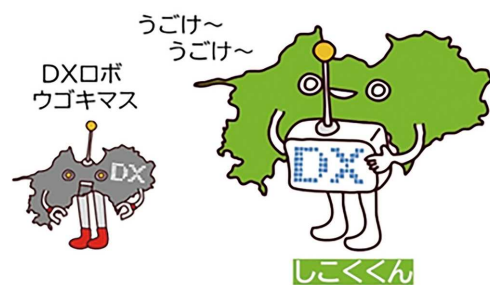
※セミナーは要事前申込・先着順。14時から15時までのセミナーを受講した場合のみ受講終了証をお渡します。

インフラDX見学会
参加申し込みフォーム



▲申し込みはこちら

建設DX技術活用における 無人化試験施工

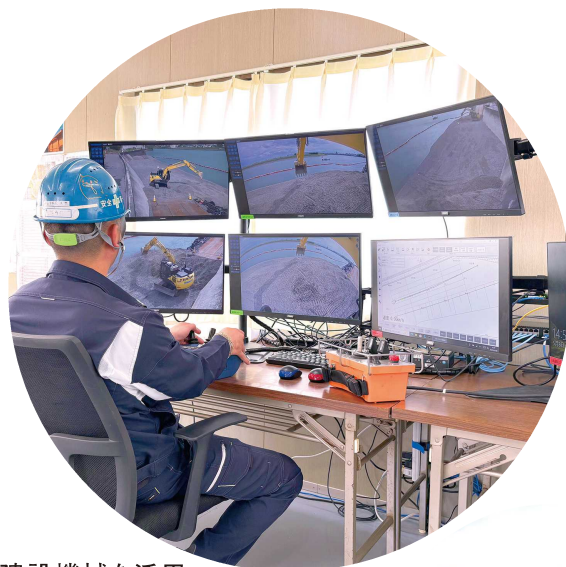


今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震では、人や有人建設機械が立ち入れない被災現場が発生する可能性があります。こうした状況に備え、見学会ではi-Construction／インフラDXを活用し、災害現場を想定した遠隔操作バックホウおよび自動走行クローラードンプによる試験施工を実施。無人化施工による災害対応技術の実証実験で、無人化・自動施工技術の有効性を検証します。

無人化試験施工で目指すこと

災害対応力の向上

大規模災害時には、人的被害や二次災害の危険から河川内での有人施工が困難となることが想定されます。本実験では無人化施工・自動施工技術を検証し、迅速かつ安全な応急復旧体制の構築を目指します。



省人化・生産性の検証

自動施工クローラードンプなどのDX建設機械を活用し、施工に必要な人員削減や省人化施工の有効性を検証します。また、施工時間や作業効率を把握し、災害復旧時の生産性への影響を確認します。



人材育成・技術継承

国土交通省と災害協定を締結している建設業者を対象に、遠隔操縦式バックホウの操作訓練を実施します。平時からの訓練を通じて、災害時に即応できるオペレーターの育成と技術継承を図ります。